

令和8年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立北山小学校

4月から5月にかけて、文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童・生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育の改善を図るとともに、児童・生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

調査期日 令和8年4月23日（木）

（注）質問調査については、オンライン方式（CBT方式）のため、調査日を分散して実施

調査の対象学年 小学校第6学年

調査の内容

（1）教科に関する調査

国語、算数

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。

② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。

調査問題では、上記①と②を一体的に問うている。

（2）質問調査（1人1台端末を用いたCBT方式）

児童生徒に対する質問	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
学校に対する質問	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

教科に関する調査結果及び考察について

・全国学力・学習状況調査は、小学6年生及び中学3年生を対象に、国語、算数・数学、英語について実施されています。

・また、調査問題は、各教科の一部の内容について出題されているものであり、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり、「学校教育活動の一側面」です。

したがって、調査結果を見る際には、この点をご理解いただいた上で、ご覧ください。

調査結果及び考察

質問調査

佐賀市学校教育ビジョンに関わる設問より（キーワード：自律・尊重・創造・主体性・当事者意識）

《質問領域：主体的・対話的で深い学び》

（注）数値は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等、肯定的な回答の割合（％）

質問番号	質問事項	本校（％）	全国（％）
39	前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	66.6	77.6
42	学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	83.3	85.7
46	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	100.0	91.4

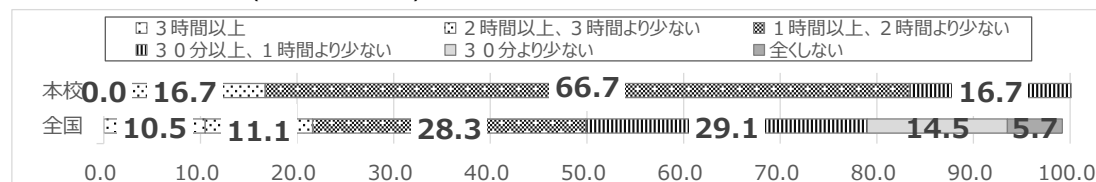
本校の調査結果 ※◎（強み）、●（課題）

- ◎クラスのみんなで協力して学習する雰囲気があり、教えあい、学びあうことを大切にしている。
- ◎昨年度までに比べて、友達の考えを大切にしながら課題を解決していこうという意識が高まっている。
- どうにかして自力で解決しようという意欲や、粘り強く取り組む姿勢が弱い傾向もまだ見られる。

《質問領域：主体的な学習の調整、学習習慣》

22	分からないことやわくわく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	83.3	79.4
43	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	83.4	78.4

23 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)1日当たりどれくらいの時間勉強していますか



《質問領域：自己肯定感、幸福感 等》

8	自分には、よいところがあると思う	100.0	85.6
10	将来の夢や目標を持っている	83.3	81.8
15	学校に行くのは楽しいと思う	100.0	85.7
21	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	100.0	92.5

本校の調査結果 ※◎（強み）、●課題

- ◎学校生活に満足しており、安心して生活できる学級の風土がある。
- ◎自己肯定感も高く、みんながよさを認め合う雰囲気の中、幸せを感じている。
- まだ将来自分が、地域や社会のためにどんな貢献ができるかまでは、イメージできていない。

《質問領域：向社会性》

14	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	100.0	95.8
33	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	66.7	80.1

調査結果を受けて

【学校では】

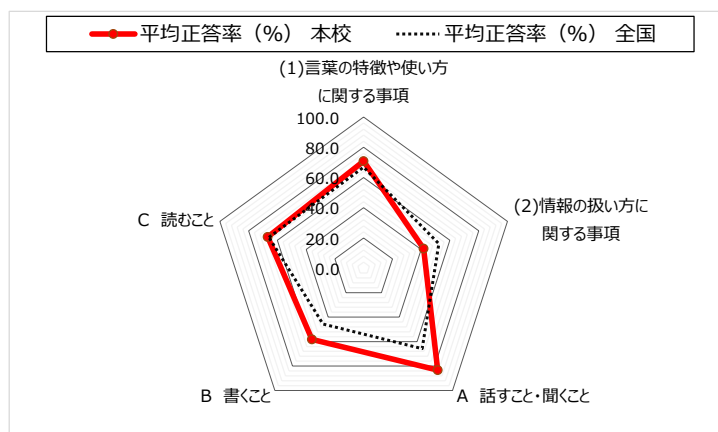
- 児童相互が意見を出し合いながら、協働して課題を解決する主体的な学びを推進していきます。
- 小人数の強みを生かして、個々の習熟状況を把握し、きめ細やかな個に応じた指導で知識技能の定着を図ります。
- これからもお互いを認め合い高めあう人間関係作りや、学級の支持的風土づくりに取り組みます。

【ご家庭では】

- 高学年は、自学（自分の課題克服、習熟の徹底に向けて、自分で苦手分野の学習や探究的学習に取り組む家庭学習）を推進し、自分の今の課題に合った自学の内容・質の向上をめざしています。自学ノートに関心をもって目を通していただき、お子さんが自身で成果を実感できる自学に取り組めるよう、声掛けをお願いします。
- 細かい心身や言動の変化等、気になることがあったら、学校へ速やかにご相談ください。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容		平均正答率 (%)	
		本校	全国
知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	70.8	66.8
	(2)情報の扱い方に 関する事項	41.7	52.3
思考力、 判断力、 表現力 等	A 話すこと・聞くこと	83.3	65.8
	B 書くこと	58.3	45.7
	C 読むこと	66.7	65.9



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	63.0	61.9
短答式	75.0	62.6
記述式	75.0	54.9

結果 ※◎ (強み)、●課題

◎「話すこと・聞くこと」の領域で、全国平均を大幅に上回ることができた。文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめ、相手に伝わるように表現を工夫して、書いたり話したりする力がついてきている。

●目的に応じて必要な情報を見付けたり、情報と情報とを関係付けて理解し使うことが苦手である。

《正答率の高い問題》【強み】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
1 二 (1)	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる	83.3	63.2
3 三 (2)	文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	100.0	76.4

《正答率の低い問題》【課題】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
3 二	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる	33.3	55.6
3 三 (1)	目的に応じて、必要な情報を見付けることができるかどうかをみる	33.3	55.5

調査結果を受けて

【学校では】

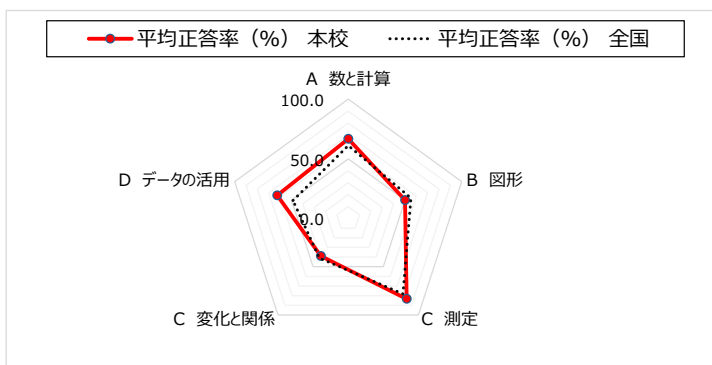
○本校では、他者の考えを聞いて対話の中で自分の考えを深め、伝えることができる力の育成を校内研究で取り組んでおり、その成果が今回の調査結果でも見られました。一方、情報活用能力に課題が見られました。あふれる情報の中から、目的に応じた必要な正しい情報を取捨選択し活用する力を育成するためには、著者の主題や意図、文章の要旨を的確に捉える力が重要となります。叙述の中からキーワードを見出し、根拠を明らかにして考えを表出する授業づくりをしていきます。

【ご家庭では】

○学校でも推進している「1 往復半以上の対話」を心がけましょう。質問して応答で終わらず、「どうして?」「自分はこう思うけど…」等、相手の思いを引き出す声掛けをすることで、お子さんのコミュニケーション力を高めることができます。また、学校での生活の様子を知ったり、お子さんの成長ぶりを感じたりできるとと思います。ご家庭でも学力向上・コミュニケーション能力向上にご協力をお願いします。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容	平均正答率 (%)	
	本校	全国
A 数と計算	66.7	61.1
B 図形	50.0	55.3
C 測定	83.3	78.1
C 変化と関係	38.9	41.1
D データの活用	62.5	48.6



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	60.0	56.0
短答式	56.3	59.7
記述式	61.1	48.5

結果 ※◎ (強み)、●課題

◎「数と計算」「測定」「データの活用」領域で全国平均を上回った。特に示された資料やデータを読み解きながら考えることは、よくできていた。

●「図形の領域」や「変化と関係」の領域で、全国平均を下回った。下学年で学習した図形の定義・公式・用語や、単位量当たりの考え方等、復習する必要がある。また、四則計算については、やりかたは理解しているものの、単純な計算まちがい等も見受けられ、速く正確に計算する力を身に着けさせる必要がある。

《正答率の高い問題》【強み】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
2 (1)	数を四捨五入して、概数で表すことができるかどうかをみる	83.3	66.5
4 (4)	帯グラフの特徴と使い方を理解し、およその割合を読み取ることができるかどうかをみる	100.0	74.9

《正答率の低い問題》【課題】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
1 (1)	立方体の体積の計算による求め方について理解しているかどうかをみる	50.0	72.7
2 (3)	単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらの方が混んでいるのかについて判断できるかどうかをみる。	0.0	36.1

調査結果を受けて

【学校では】

○卒業までに、6年生の内容に加え下学年の内容も含め、小学校で履修した学習内容の復習を行い、自信をもって中学校に進学させます。他の学年でも、その学年で身に着けるべき学習内容の習熟に努めます。

○子供たちが、自分の考えを出し合い、協働しながらよりよい考えを見出せる、児童が主体的に学ぶ授業を推進します。

【ご家庭では】

○お子さんに、「どうやって答えを求めたの?」「どうしてそうなるの?」と、考えの道筋や根拠を問うような声をかけてみてください。答えがわかっているだけでなく、わかりやすく説明できると、理解をより深めることができますし、相手意識・目的意識をもって伝える表現力も高まります。用語やきまりを用いて説明できたり、「まず、次に、…」 「だって…だから…」という手順や理由が言えたら、ほめてあげてください。